

知的障害のある人にとっての高等教育保障の意義



長谷川 正人、長谷川 美栄、志免木 章、井手 祐輔、小林 知佐

1. 日本の現状

平成 26 年 3 月、日本では 16,566 名が特別支援学校を卒業した。
しかし、その後の進路としては、大きな偏りが見られる。

おおよそ、特別支援学校で選んだ就労先、または社会福祉施設等の入所・通所施設に通う確率が 95%を超えている。
しかしその中には、大きな可能性と夢を秘めたまま進学が出来ていない青少年も少なくない。
進学率としては、0.41%しか実現しておらず、学びたくても学べないのが現状である。
現在、日本では福祉サービスを使った福祉型専攻科が増えつつあり、学びの場を提供しているが
就労移行の 2 年間では満たされていない現状もある。

特別支援学校高等部(本科)卒業生の状況 (平成 26 年 3 月 卒業者)

卒業生	進学者			教育訓練機関入学者				就職者	社会福祉施設	その他
	大学等	専攻科	計	専修学校	各種学校	職業能力開発	計			
16,566	4	66	70	15	7	237	259	5,145	10,636	456
100%	0.02%	0.39%	0.41%	0.09%	0.04%	1.43%	1.54%	31.1%	64.2%	2.8%

2. ゆたかカレッジの概要

「ゆたかカレッジ」とは、2 年間「自立訓練」を学び、2 年間「就労移行」を学ぶ福祉型大学です。

「自立訓練」では、基礎学力・一般教養など生きるために必要な力を学びます。
子どもから大人へのスムーズな移行。仲間たちとともに青春を謳歌し、充実した青年期に体験を中心としています。
そこから、成功と失敗を繰り返すことで達成感と折れない心、人を思いやれる心の育成に取り組んでいます。

その後「就労移行」では、得意なこと長所や個性を伸ばし、苦手なことを把握し人より障の多い人生をより豊かに過ごす体験を積み重ね実務を中心に労働する力、そして職場で孤独し離職しないコミュニケーション力、逆境から逃げない、折れない心の育成に取り組んでいます。
新たな挑戦だけでなく、高校や高等部で学んだことを土台に更なる成長を促します。

1. 生きるために必要な力や人生を楽しむ力を身につけ、忍耐・努力することのできる社会人。
2. 個性や自主性が輝き、伝え合う力や協調性を持つ社会人。
3. 社会で生きる意欲と、折れない心(レジリエンス)を持つ社会人。

社会で安心して過ごせる大人の育成を行っている福祉型大学です。

自立(生活)訓練		
ホームルーム	一般教養	生活
基礎学力	資格検定	スポーツ
文化芸術	労働	自主ゼミ
経済	調理	余暇活動



就労移行	
ソーシャルスキルトレーニング	厨房実務
介護実務	清掃実務
対人実務	パソコン実務
物流実務	店舗実務

ゆたかカレッジ



マラソン大会



論文発表会



資格合格証書

楽観性
自己効力感
自尊心感情
感情コントロール

逆境に折れない心
(レジリエンス)

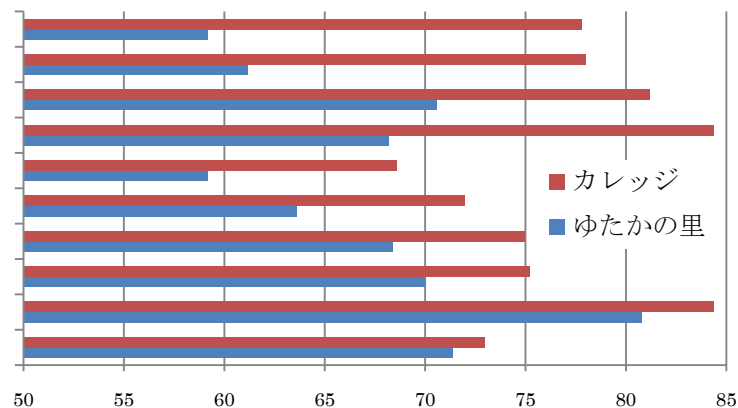
3. アンケート結果

社会福祉法人が経営する「ゆたかカレッジ」(高校卒業後の社会自立を目指した教育提供の場)と「ゆたかの里」(高校卒業後の創作活動や生産活動提供の場)に所属する 100 名に対し、「自己の成長」「人間関係のスキルの向上」「就労意欲の向上」など 10 項目についてアンケートを実施した。結果、「ゆたかカレッジ」の利用者は、「ゆたかの里」の者より「自分が社会の中で価値ある人間だと思えるようになった」が 18.6%、「日々の活動がより充実した」が 16.8%、「我慢強さや素直な心が育ったと感じる」が 16.2%とそれぞれ高かった。

- 自分がかげがえのない存在、価値ある存在だと思えるようになりましたか？
- 毎日の活動は充実していますか？
- 我慢強さや素直な心が育ったと思いますか？
- 周りの人を信頼したり、困った時に相談できるコミュニケーション力が身につきましたか？
- 自分も社会で生きていけると自信が身につきましたか？
- グループホームやアパートで生活できる力が育ったと思いますか？
- 社会の常識やルールが身につきましたか？
- 友達との交友関係はひろがりましたか？
- 会社などで働きたいと思うようになりましたか？
- 自分の個性や長所が伸びたと思いますか？



ゆたかの里



カレッジ	ゆたか	差
77.8	59.2	18.6
78.0	61.2	16.8
84.4	68.2	16.2
81.2	70.6	10.2
68.6	59.2	9.0
72.0	63.6	8.4
75.5	68.4	7.1
75.2	70.0	5.2
84.4	80.8	3.6
73.3	73.0	0.3

4. 考察

「ゆたかカレッジ」で学ぶことによって、向上心・意欲が上がり成果もみられるため、高校卒業後の教育に大きな意義があることが判明した。日本においても知的障害のある人の高等教育の機会を健常者と分け隔てなく広げていくことが必要とされる。そのためには、国公立大学や公共の施設も障害のある者に開放され、障害のない人からの差別のないインクルーシブな社会を目指す必要がある。
施設が解放されることにより、同じ空間で過ごし、心身ともに成長してゆくことが理想とされる。



カレッジメンバー